

栃木 100 山 芝草山&三本槍岳（個人山行）

（報告）赤澤 東洋

◎山行期日：2019年9月24日（火）～25日（水）

◎メンバー：赤澤他1名（妻）

幼年時栃木県に2年半程住んでいた。昭和24年4月、栃木県上河内郡白沢村白沢小学校入学、極端に紙不足だった敗戦混乱期、学習用の帳面は貴重品で、学用品は石盤と蠟石のみ、アイウエオや足し算、引き算は石盤に蠟石で書いては消し、書いては消しで学習した。国鉄宇都宮駅から一つ先の岡本駅から2^{キロ}程歩いた雑木林の中の国鉄官舎（国鉄は父の勤務先）から学校までは片道4^{キロ}、通学路から男体山の大きな山体がよく見えていた。同年11月に今の上尾に引っ越しし、上尾小学校に転校、石盤持って登校したら皆に笑われカルチャーショック、田舎者の我が繊細な心は傷つき、なかなか立ち直れなかった事を思い出す。

生まれたのは埼玉県大宮市、1銭5厘の赤紙で召集され南方へ駆り出された父は音信不通、昭和20年3月10日の大空襲で東京焼け野原の被害報道に怯えた母は3人の子供抱えて祖母と5人、親戚のそのまた遠縁頼って3月末大宮から宮城県に疎開した。柴田郡金ヶ瀬村の遠縁は息子3人が戦死し、他人が潜り込めるような環境になく、結局は見ず知らずの親切な農家の納屋を借りての肩身の狭い困窮生活、父の行方は職場に聞いても役場に聞いても、南方と云うだけで彼らの頭に浮かぶのはダガルカナル、サイパン、インパール等全滅の噂ばかり、明るい見通し何一つないあの時代、母はよう頑張ってたなと頭が下がる。

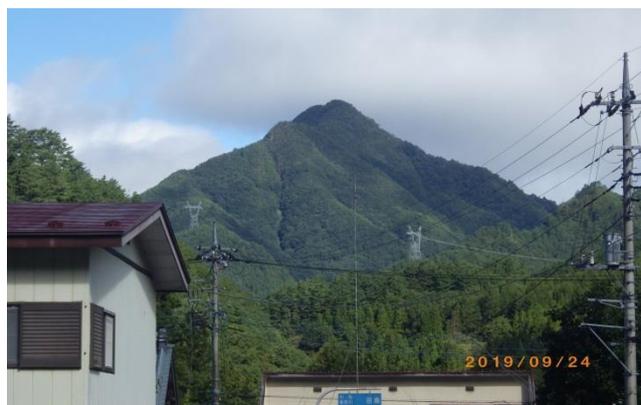
前置きが長くなったが、疎開先の金ヶ瀬村は蔵王山に近く、毎日仰いでいた山の筈だが、3歳～4歳という事もあり、まったく覚えてないのに比して、5歳～7歳にかけての栃木県の場合、片道4^{キロ}の通学路から仰ぐ大きな男体山はよく覚えており栃木県は我が第二の故郷のような親しみを感じており、我が山行もこちら方面に向かう事が多くなっている。

★9月24日 芝草山（1342m）

野岩鉄道・中三依温泉駅前から北西を望むと均整とれた三角錐形の山容が目に入るがこれが芝草山だ。栃木100名山にも選ばれている。これは深田久弥日本100名山ブームにあやかって少しでも観光に役立てようと県の観光課辺りが目論見たもの、地元以外殆んど知られてない山が多いが、会山行に使えないものかと、塩原温泉周辺の葛老山、塩沢山、若見山、弥太郎山と下見してきたが、いずれも花はナシ、展望もきかずで労多くして得るもの少なしで不合格。

これが最後かもと選んだのが、見た目の良さそうな芝草山だった。

駅前の121号線を北に向かい、男鹿川に架かる橋を渡ってすぐ左折、入山沢林道を直進し休業中の「太郎温泉」前の草地に駐車する。砂防工事でもしているのか建設工事の現場事務所があり、山の様子を尋



（中三依温泉駅から望む芝草山）

ねると「親子熊が周回しているので気を付けて」と注意を受ける。

事務所のすぐ先右手が登山口で小型冷蔵庫を再生した登山届ボックスがあり、熊鈴つけて 9:25 出発。天気はまずまず、歩き出しは杉林の中の送電線巡視路で急傾斜もなく歩き易く、これなら足弱ロートル隊向きかと期待がふくらんだ。尾根右側をトラバース気味に登り、45 分程で東電・塩原送電線鉄塔着となり一呼吸入れる。さらに痩せた尾根を行くと前方に大岩が行く手を遮るように立ちふさがっていた。岩溝にはロープも垂れ下がっており滑り易い急登、30 分程を慎重に岩や木の根を手掛かりに何とか登りきる。振り返ると釈迦ヶ岳等の高原山連峰が見え、本コースではここが一番展望良い場所だった。その先にはブナ林も現れてキノコが沢山出てくる。美味そうなものもあるがここは自重、だいたい色の奇妙なキノコは帰宅後図鑑で調べてみたら「ベニナギナタダケ」らしい。毒は無く食用になるそうだが、見た目から食するには勇気が必要だ。

12:05 頂上着。登山口から 2 時間 40 分、狭い頂上は笹と灌木に覆われ展望にも恵まれず、標高差 600 分、労多くして得るもの少なしの山で我らロートル隊向きではない事を確認、折からポツポツと降り出したので雨具をつけて急ぎ下山にかかった。下りは 1 時間 50 分、すっかり濡れそぼって寒さに震え、川治温泉で熱い温泉に浸かりホッとした。栃木 100 名山、全国向けにはチト無理というところか。



(見た目には食するに勇気が必要なベニナギナタダケ)



(笹と灌木で展望が無い芝草山)

《コースタイム》 9:25 中ノ沢林道登山口発、12:05 芝草山頂上、13:55 登山口着

★9月25日 61年ぶりの三本槍岳(1917m)

我がお山登り、その筆おろしは高校1年(1958年)夏的那須岳だった。ご近所の大学生とその友人2人にくっついて1日目は飯盛温泉跡でキャンプ、2日目は三本槍岳へ登り清水平でキャンプ、3日目に空身で那須連山の主峰・茶臼岳を往復し北温泉に下った。

その後何度も那須には出かけたが、栃木県からだとは三本槍岳が一番奥となり、なかなか足を伸ばせなかったのだが、2008年9月南会津・下郷村と西白河・西郷村を結ぶ国道289号線が甲子トンネル(全長・4345m)の開通によりつながり様相がガラッと変わった。下郷村・観音沼森林公園から大峠林道を利用すれば最短日帰りが可能となった。トンネル完成前の国道289号は甲子温泉・大黒屋の裏手で山道の「登山国道」となり、世にも珍しい国道と愛好家の間ではよく知られていた処という。2005年8月川崎、大塚両氏と大黒屋の駐車場に幕営、阿武隈川南沢に挑んだ事があったが、沢を詰め甲子山から大黒屋へ戻る下山道にれっきとした「国道289号」の標識が立てられていて「エッ!ナニコレ!?!」と不思議な気持ちにさせられた事を思い出す。

トンネル建設は南会津の悲願、会津出身の国会議員渡部恒三氏の根回しあつての早期完成であり、あ

のズーズー弁の面目躍如、選挙に強いわけが良くわかる。そして今我ら登山者も大いにその恩恵を被っているというわけである。

昨年 10 月塚本さん達と流石山に挑んだ折は大峠林道の入口で土砂崩れの復旧工事中の為、車両進入出来ず、1 時間余りも歩かねばならなかったが、1 年後の今日は工事は無事終了しており難なく通過、林道終点近くまで車が入れた。

9:45 出発。会津藩と官軍が戦った戊辰戦争の戦跡を遺す大峠林道は車の通れる位に広いが、石ころで凸凹だらけ、じきに鏡ヶ沼への分岐となり左折する。登り初めはカラマツ林の中ゆるやかで歩き易かったが、すぐに大石のゴロゴロする潤れた沢状の岩道となり歩き難くなる。身体がすっぽり隠れるような深い笹藪も出てきたが、45 分程で鏡ヶ沼に着く。話には聞いていたが 61 年前はガスっていて見る事の出来なかった伝説の沼がひっそりとたたずんでいた。ここで幕営し一晩過ごすのもいいかもしれないと思う。この先稜線までは 30 分程だったが、背丈を超す笹藪の中の急登となり 5 分離れると連れを見失うような濃密な藪、こんな山に馴れてない相棒はどうやらご機嫌斜めの趣で青息吐息、このルートを進んだのは間違いだったかもと少し後悔する。漸く登り詰めた尾根は三本槍岳から甲子山まで続く那須連峰北方稜線で、ここで 1955 年 5 月に白河高校山岳部の高校生 6 名が疲労凍死するという大きな遭難事故があった事を知る人は少ないだろう。

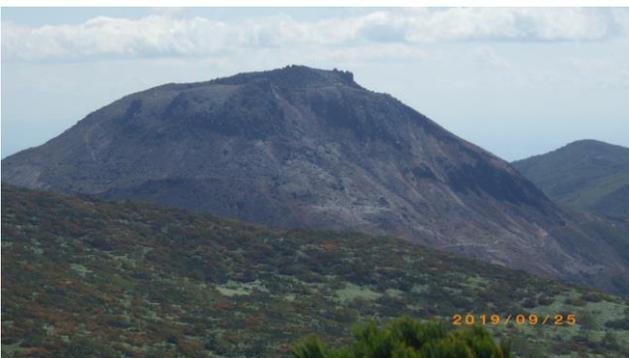


(北方稜線から俯瞰した鏡ヶ沼)



(背丈を超す笹藪の急登)

尾根に出ると間もなくしてガスってきて冷たい風に晒され雨具をつけたが、幸いに長続きはせず、すぐにガスも切れて 12:10 待望の三本槍岳頂上に到着。実に 61 年ぶりの山頂、先客が 6 名程てんでに寛いでいる。あの時はガスっていて何も見えず、1 枚の写真も残ってないが、今日は 360 度の大展望、流石山から三倉山への山塊が大きく、細い噴煙を吐く主峰・茶臼岳も堂々としている。存分に展望を愉しみ、次回は雪のある時期に来る事を誓って下山にかかった。帰路は大峠経由としたが、こちらはずっと歩き易く往復共にこちらのルートを進るならロートル隊でも充分いけるのではないかと思った。



(三本槍ヶ岳山頂から那須連峰主峰・茶臼岳を望む)



(三本槍ヶ岳山頂)

《コースタイ》

9：45 大峠林道登山口発、10：45 鏡ヶ沼、11：15 北方稜線、12：10 三本槍岳、13：35 大峠、
14：05 大峠林道登山口下山

★三本槍岳という山名から槍ヶ岳のような岩山を連想するが、山容は丸くどっしりしている。山名の由来は藩政時代に会津藩、白河藩、大田原藩の三藩が山頂に3本の槍を立て境界とした事からきていると言われている。

(了)